

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成28年3月17日(2016.3.17)

【公表番号】特表2012-522102(P2012-522102A)

【公表日】平成24年9月20日(2012.9.20)

【年通号数】公開・登録公報2012-038

【出願番号】特願2012-503440(P2012-503440)

【国際特許分類】

C 08 G 18/10 (2006.01)

C 08 G 18/65 (2006.01)

C 09 D 175/12 (2006.01)

C 09 D 5/02 (2006.01)

B 05 D 7/24 (2006.01)

【F I】

C 08 G 18/10

C 08 G 18/65 A

C 09 D 175/12

C 09 D 5/02

B 05 D 7/24 302T

【誤訳訂正書】

【提出日】平成28年1月29日(2016.1.29)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

1または複数のプレポリマーに由来する1または複数のポリウレタン単位であって、前記1または複数のプレポリマーが、1または複数のイソシアネートと、1または複数のジメチロールプロピオン酸、ジメチロールブタン酸及びジアミノスルホネートからなる群から選択される成分の存在下でジプロピレングリコールジメチルエーテルに溶解した混合物との反応生成物を含み、前記混合物が、1または複数の天然油系ポリオール、および1または複数のアジペートポリオール、および場合によって1または複数の50～500g/molの分子量を有するジオールを含む、ポリウレタン単位、および水

を含むポリウレタン分散体であって、

前記1または複数の天然油系ポリオールが、天然油に由来する脂肪酸メチルエステルをヒドロホルミル化してアルデヒド中間体を得、前記アルデヒド中間体を水素化してモノマーを得、前記モノマーをグリコール開始剤によってエステル転移させることによって、モノマーの一部とグリコール開始剤との縮合物およびモノマーの他の一部の自己縮合物の混合物として得られる1または複数の天然油系ポリオールであって、一级水酸基を含み、不飽和を含まず、官能価が1.5より高く6より高くないポリオールである、ポリウレタン分散体。

【請求項2】

ポリウレタン分散体を生成する方法であって、

1または複数のプレポリマーを含む第1のストリームを提供するステップであって、前記1または複数のプレポリマーが、1または複数のイソシアネートと、1または複数のジ

メチロールプロピオン酸、ジメチロールブタン酸及びジアミノスルホネートからなる群から選択される成分の存在下でジプロピレングリコールジメチルエーテルに溶解した混合物との反応生成物を含み、前記混合物が、1または複数の天然油系ポリオール、および1または複数のアジペートポリオール、および場合によって1または複数の50～500g/molの分子量を有するジオールを含み、前記1または複数のプレポリマーが1または複数の中和剤によって場合によって中和されるステップ、

水を含む第2のストリームを提供するステップ、

前記第1のストリームおよび前記第2のストリームを一緒に混合するステップ、

それによってプレポリマー分散体を形成するステップ、

場合によって前記プレポリマー分散体を中和するステップ、

前記プレポリマーを鎖延長するステップ、

それによって前記ポリウレタン分散体を形成するステップ

を含む方法であって、

前記1または複数の天然油系ポリオールが、天然油に由来する脂肪酸メチルエステルをヒドロホルミル化してアルデヒド中間体を得、前記アルデヒド中間体を水素化してモノマーを得、前記モノマーをグリコール開始剤によってエステル転移させることによって、モノマーの一部とグリコール開始剤との縮合物およびモノマーの他の一部の自己縮合物の混合物として得られる1または複数の天然油系ポリオールであって、一級水酸基を含み、不飽和を含まず、官能価が1.5より高く6より高くないポリオールである、方法。

【請求項3】

基板と、

前記基板の1または複数の表面に結合されたコーティングであって、請求項1に記載のポリウレタン分散体に由来するコーティングと

を含むコーティングされた物品。

【請求項4】

物品をコーティングする方法であって、

基板を選択するステップ、

請求項1に記載のポリウレタン分散体を含むコーティング組成物を選択するステップ、前記基板の1または複数の表面に前記コーティング組成物を塗布するステップ、

水の少なくとも一部を除去するステップ、

それによって前記コーティングされた物品を形成するステップ

を含む、物品をコーティングする方法。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0026

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0026】

第1の界面活性剤

第1の界面活性剤は、6重量パーセント未満含んでよい、例えば、第1の界面活性剤は、4～6重量パーセント含んでよい。代表的な第1の界面活性剤としては、限定はされないが、ジメチロールプロピオン酸、ジメチロールプロピオン酸、ジメチロールブタン酸、およびジアミノスルホネートが挙げられる。